

平成29年度 学校評価計画書

石川県立金沢伏見高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
1	より高い目標に挑戦する生徒を育成するとともに、その目標実現のために生徒一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行う。	① ホーム担任等との面談を繰り返し、生徒が将来を見据えてより高い進路目標を設定できるように支援する。	進路指導課 各学年	面談は年間を通して実施している。多様な進路志望に対応できる普通科高等学校として、より組織的な指導体制と生徒一人ひとりに対するガイダンス機能を強化する必要がある。	【満足度指標】 本校で行うキャリア教育や面談指導が進路を考えるうえで参考になったとする生徒の割合が80%以上である。	担任との個人面談が進路を考える上で参考になったとする生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、面談内容や時期、および面談回数等、生徒への情報提供のあり方や意識づけ方法を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
				進路適性検査や模試の結果等の情報を全職員で共有・活用し、生徒が自己理解を深め、自己肯定感を高め、より高い目標を設定できるように支援する。	【成果指標】 第一志望の進路に合格することを重視する。	第一志望の上級学校または事業所に合格した生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、次年度の取組を再検討する。	1学期末の第一志望を元に年度末に進路状況を集計する。
2	教職員自らが資質向上に励み、不断の授業改善により生徒の学習意欲を高め自ら進んで学ぶ態度を育成する。	① 学習時間の調査を通して、自ら見通しを持って家庭学習に取り組む態度を育て、学習習慣の確立を図る。	教務課 各学年 各教科	家庭学習時間は伸びつつあるが、十分とは言えない。日々の学習記録を分析すると、定期考査2週間前から2時間以上家庭学習する生徒の割合が増える。定期考査での成績向上など目標をうまく持たせて家庭学習時間を充実させる方法を模索中である。	【成果指標】 自ら継続的に家庭学習に取り組むことを重視する。2時間以上家庭学習をしている生徒の割合が50%以上である。	1日平均2時間以上家庭学習している生徒の割合が A：60%以上 B：50%以上 C：40%以上 D：40%未満	C、Dの場合、学習指導のあり方を再検討する。	年5回、定期考査前に家庭学習時間調査を実施する。
			② 不断の授業改善の実現に向けて、教科の枠を超えたOJT研修を実施することで、生徒の学習意欲向上を図る。	教務課 各教科	教員の相互授業参観などを通して授業改善を遂行する意識はあるものの、魅力ある内容や、授業改善に関する悩みや本音を共有できる体制が十分でない。教員が自信をもって授業に臨むことが、生徒の学習意欲の向上につながる。	【努力指標】 アクティブ・ラーニング等生徒が主体的に授業に参加する手法を取り入れている。	(生徒) 本校の教員は、生徒が主体的に学習できる授業を行っている」と回答する生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 (教員) アクティブ・ラーニング等の手法を授業に取り入れている教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合、授業改善の状況、指導法を再検討する。

平成29年度 学校評価計画書

石川県立金沢伏見高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 あらゆる教育活動を通して、規律ある学校生活を送り、誠実で品位ある心豊かな生徒を育成する。	① 時間を守る等、基本的な生活習慣の確立を図り、遅刻常習者への面談を強化する等、各学年ごとに遅刻を減少させる取組を実施する。	生徒指導課 各学年	28年度の遅刻延べ人数は、前年度と比較して4%増加した。遅刻が常態化している生徒には、学年・生徒指導課が連携して、丁寧な面談により基本的な生活習慣を身に付けさせる支援的な関わりを継続している。	【成果指標】 一日平均の遅刻者数が4人未満である。	一日平均の遅刻者数が A 3人未満 B 4人未満 C 5人未満 D 5人以上	C、Dの場合、特に常習者の遅刻原因を究明し、生徒・保護者とともに対応策を検討する。	毎日記録し、月ごとの集計により推移を注視する。
	② 自発的な挨拶、正しい言葉遣いなどを身につけ品位のある人間性を養う。	生徒指導課 教務課 特活指導課 各部	挨拶をする生徒は多いものの、自ら進んで行く意識が低い生徒もみられる。	【成果指標】 生徒が自ら進んで挨拶ができる。	自ら進んで挨拶できる生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	③ 学校生活の中で、環境保全に対する生徒の意識を高める。	保健相談課 各学年	学校から排出される可燃ゴミの量が、28年度は前年度に比べて、960kg減少した。この状態を維持またはさらに推進していきたい。	【満足度指標】 ゴミの分別、教室やトイレの消灯等に積極的に取り組んでいる生徒の割合が80%以上である。	ゴミの分別、教室やトイレの消灯等、校内の環境保全活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合が A：85%以上 B：80%以上 C：75%以上 D：75%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	④ 部加入率を高め、部活動を活性化する。	特活指導課 各学年 各部	28年度の部加入率は、81%であり前年度よりも減少している。2年次で退部する生徒が多く、部活動に取り組む意欲が低いと感じられる。	【成果指標】 部活動に登録した生徒が全体の85%以上である。	部活動に登録した生徒の延べ人数が全生徒数の A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	C、Dの場合、各部活動の活動内容・記録等を周知するとともに、高校生活を通して部活動を続ける意義を実感させる取り組みを再検討する。	5月と10月に部加入率の調査を実施する。
4 学校の魅力を積極的に発信し、保護者や地域から信頼される学校づくりを目指す。	① ボランティア活動後の振り返りを充実させ、自己の成長を実感させることで、ボランティア活動に積極的に参加する意識を一層高める。	特活指導課 各学年 各部活動	部活動単位でボランティア活動に積極的に参加している。夏季休業中のサマーボランティアはわずかながら増加傾向にある。	【成果指標】 ボランティア活動に参加した生徒の実人数が全生徒数の80%以上である。	ボランティア活動に参加した生徒の実人数が全生徒数の A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、活動計画の周知を徹底するとともに、活動の意義を実感させる取組を再検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	② 学校ホームページを活用し、保護者や地域等への情報提供を一層充実させる。	副校長 総務課	各課の連携により保護者との情報共有に力を入れている。	【満足度指標】 学校ホームページによって、本校の教育活動についてよく理解できると回答した保護者の割合が80%以上である。	学校ホームページによって、本校の教育活動についてよく理解できると回答した保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、提供する情報の内容等について再検討する。	7月と12月に学校評価（保護者）で調査する。